

食料生産学科

学科のディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

<教育理念と教育目的>

食料生産学科は、農学分野が担うべき「安全で安心な食料の安定的供給」を実現するため、圃場、栽培施設、植物工場などにおける植物生産と、その収穫物の流通、貯蔵、加工、販売のプロセスに関する教育研究を行います。植物学、栽培学、生態学、生物環境調節学などをベースとし、これに、分子生物学的な知識・手法、経営学やフィールド調査などの社会科学的知識・手法などを加え、環境保全型農業から植物工場による植物生産まで様々な形態の食料生産に必要な広範な知識や技術を教授し、わが国及び諸外国における食料の安定的生産・供給に貢献できる人材を育成することを目的としています。

<育成する人材像>

農学部教育理念に基づいた農学教育を提供することにより、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給を実現し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成します。具体的には、

- ・ 栽培・生物学分野から食料生産における知識と技術を修得し、課題解決力を備えた人材
- ・ 最先端の植物工場や施設栽培に関する知識と技術を修得し、課題解決力を備えた人材
- ・ 食の安全安心を担保するための社会科学的な知識と技術を修得し、課題解決力を備えた人材

を輩出することを目指します。

<学習の到達目標>

(知識・技能・理解)

安全・安心な食料の安定供給を実現するための必要な、栽培、管理から収穫、加工、流通、販売、経営までの一連のプロセスに関する専門知識と技術を修得している。

(思考・判断)

地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関連する諸課題、特に食料に関連する諸課題の原因を論理的に説明でき、解決策を見出すことができる。

(興味・関心・意欲)

上記の諸課題への関心と身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲をもち、倫理性をもって、継続的に課題解決のための行動をとることができる。

(表現)

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有している。

(主体性・協働性)

主体性をもって多様な人々と協力することにより、上記諸課題の解決に取り組むことができる。

＜卒業認定・学位授与＞

共通教育科目 33 単位、学部共通科目 7 単位、学科共通科目 33 単位、コース専門科目 56 単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学士（農学）の学位を授与します。

学科のカリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成と教育内容＞

食料に関する専門知識と技術を修得するにあたって、農学に関する広範で俯瞰的な知識と技術も同時に必要不可欠であるという考え方から、学部共通科目として、必修 7 単位、選択 6 単位の授業科目を開講しています。また、2 年次よりコースに所属しますが、学科共通の授業科目も開講しています。また、1 年次には農学実習 I A、B を必修とし、学科の知識を深めるとともに技能技術の基礎を身に付けます。さらに、卒業論文の開始時期を 3 年次後学期とし、デザイン能力を修得します。

＜教育方法と成績評価＞

講義形式の授業だけでなく、実験・実習等のアクティブ・ラーニングなど、ディプロマ・ポリシーに示す教育目的と学習の到達目標に応じて最適な形式の授業を実施します。また、授業時間外の学習を含む十分な学習時間を確保できるように履修登録制限（CAP 制）を設けるとともに、e ラーニングなど時間外学習を支援するツールを用意します。

すべての授業において、客観的な評価基準に基づき、筆記試験、レポートなどにより厳格な成績評価を実施します。

＜カリキュラムの評価＞

授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析を実施し、個々の授業科目の教育効果や、農学部の学修到達目標の達成状況について検証します。

学科のアドミッション・ポリシー（AP：入学者受入の方針）

食料生産学科は、栽培、管理から収穫、加工、流通、販売、経営までの一連のプロセスを俯瞰できる広い視野をもち、農業の6次産業化、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給の実現に意欲的に取り組むことができる学生を求めます。そのため、一般選抜に加えて、学校推薦型選抜や総合型選抜などの様々な入試方法も採用しています。

そこで、食料生産学科は次のような資質を有する学生を求めます。

（知識・技能・理解）

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
2. 次のいずれかに該当する。

(1) [一般選抜、総合型選抜Ⅱ]

高等学校で履修する5教科(国語、数学、理科、地理歴史・公民、外国語)の基礎的な知識・技能を有している。

(2) [学校推薦型選抜ⅠA]

高等学校で履修する国語、英語、理科・数学系の基礎的な知識・技能を有している。

(3) [学校推薦型選抜ⅠB]

高等学校で履修する国語、英語、理科・数学系の基礎的な知識・技能を有し、農林水産業、工業、商業などに関する専門的な知識・技術を有しているか、高等学校で選択履修した教科・科目について実践的・体験的学習から得られた知識・技術を有している。

(思考・判断)

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(興味・関心・意欲)

地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関する様々な問題に関心をもち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲をもっている。

(表現)

自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。

(主体性・協働性)

問題解決のために、主体性をもって多様な人々と協力できる。

<選考方法の趣旨>

【一般選抜 前期日程】

大学入学共通テストでは、入学後の修学に必要な高等学校レベルでの幅広い分野の基礎学力をみるために、5教科7科目を課し、「知識・技能・理解」を評価します。また、個別学力試験では、数学と理科1科目を課し、「思考・判断」、「表現」を評価します。さらに、調査書により、「主体性・協働性」を評価します。

【一般選抜 後期日程】

大学入学共通テストでは、入学後の修学に必要な高等学校レベルでの幅広い分野の基礎学力をみるために、5教科7科目を課し、「知識・技能・理解」を評価します。また、面接試験では、食料生産に関連する様々な問題への「関心」度、問題解決に向けた「意欲」、それに対する「思考・判断」、「表現」、「主体性・協働性」を評価します。さらに、調査書により、「主体性・協働性」を評価します。

【学校推薦型選抜ⅠA】

国語、英語、理科・数学系の3教科からなる総合問題により、高等学校で修得する「知識・技能・理解」と「思考・判断」力を評価します。また、面接(口頭試問を含む。)により、高等学校で履修する教科・科目についての基礎的な知識、食料生産に関する様々な問題への関心とこれらの問題への解決意欲、自分の考えをまとめ、表現する力を有しているかを評価します。さらに、面接と調査書・活動報告書により、「主体性・協働性」を評価します。

【学校推薦型選抜ⅠB】

国語、英語、理科・数学系の3教科からなる総合問題により、高等学校で修得する「知識・技能・理解」と「思考・判断」力を評価します。また、面接(口頭試問を含む。)により、高等学校で履修する教科・科目についての基礎的な知識、食料生産に関する様々な問題への関心とこれらの問題への解決意欲、自分の考えをまとめ、表現する力を有しているかを評価します。なお、「専門教育を主とする学科」からの受験者には農業、工業、商業などに関する専門的な知識・技術を有しているかを、「総合学科」からの受験者には高等学校で選択履修した教科・科目について実践的・体験的学習から得られた知識・技術を有しているかを、面接(口頭試問を含む。)の中で評価します。さらに、面接と調査書・活動報告書により、「主体性・協働性」を評価します。

知能的食料生産科学特別コースのディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

<教育理念と教育目的>

知能的食料生産科学特別コースは、ICTや最先端のセンサー技術を利用し、植物生体情報や環境情報の収集と解析、植物や環境に関するビッグデータ利用によるデータベースの構築と解析を通して、食料生産の情報化・知能化の推進、スマートアグリの実現を目指した教育研究を行います。また、生産現場における適正農業規範(GAP)や認定農業者制度などに関する情報も活用し、食の安全性や品質を担保するためトレーサビリティシステムなどの利用による流通システムの可視化を支援します。さらに、これら生産、収穫、流通、貯蔵、加工、販売などの経済活動を俯瞰的に捉え、大規模施設園芸団地と周辺の圃場や企業との連携による6次産業化など、新しい形の食料生産をイノベーションするための教育研究も行います。最終的には日本学術会議、内閣府で期待されている「総合情報システム化によるフードイノベーション」に対応できるスペシャリストや研究者を育成することを目的とします。

<育成する人材像>

農学部の教育理念に基づいた農学教育を提供することにより、食料に関する様々な問題を解決できる人材を育成します。具体的には、

- ・ スマート農業を実践するためのICTに関する知識と技術を備える人材
- ・ 最先端の栽培技術や計測・制御技術を身に付け、現場における問題解決・知能化に関する能力を備える人材
- ・ 「総合情報システム化によるフードイノベーション(6次産業化など)」に対応できるスペシャリストや研究者

を輩出することを目指します。

<学習の到達目標>

(知識・技能・理解)

篤農家技術からセンサー技術、情報化技術、情報通信技術まで様々な先端技術を活用して、栽培、管理から収穫、加工、流通、販売、経営までの一連のプロセスの知能化、スマート化を進めるために必要な専門知識と技術を修得している。

(思考・判断)

圃場、園芸施設、植物工場など様々な食料生産現場における知能化、スマート化を実現するために解決すべき諸課題を論理的考察に基づいて説明し、解決策を見出すことができる。

(興味・関心・意欲)

「知能的食料生産科学」という新たな学術領域の開拓に参画するとともに、安全・安心な食料の安定供給を実現するため、主体性、協調性および高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。

(表現)

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有している。

(主体性・協働性)

主体性をもって多様な人々と協力することにより、上記諸課題の解決に取り組むことができる。

<卒業認定・学位授与>

共通教育科目 33 単位、学部共通科目 7 単位、学科共通科目 33 単位、コース専門科目 56 単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学士(農学)の学位を授与します。

知能的食料生産科学特別コースのカリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

<教育課程の編成と教育内容>

環境に関する専門知識と技術を修得するにあたって、農学に関する広範で俯瞰的な知識と技術も同時に必要不可欠であるという考え方から、7 単位分の学部共通科目と 14 単位の学科共通科目を必修としています。また、大学院授業科目の先行受講(学部 4 年次から)、学部卒業研究の先行実施(学部 3 年次前学期から)、国内、海外インターンシップの実施などのカリキュラムがあります。

<教育方法と成績評価>

講義形式の授業だけでなく、実験・実習等のアクティブ・ラーニングなど、ディプロマ・ポリシーに示す教育目的と学習の到達目標に応じて最適な形式の授業を実施します。また、授業時間外の学習を含む十分な学習時間を確保できるように履修登録制限(CAP 制)を設けるとともに、eラーニングなど時間外学習を支援するツールを用意します。

すべての授業において、客観的な評価基準に基づき、筆記試験、レポートなどにより厳格な成績評価を実施します。

<カリキュラムの評価>

授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析を実施し、個々の授業科目の教育効果や、農学部の学修到達目標の達成状況について検証します。

知能的食料生産科学特別コースのアドミッション・ポリシー(AP:入学者受入の方針)

知能的食料生産科学特別コースは、圃場、園芸施設、植物工場など様々な食料生産現場において、篤農家技術からセンサー技術、情報化技術、情報通信技術まで様々な先端技術を活用して、栽培、管理から収穫、加工、流通、販売、経営までの一連のプロセスの知能化、スマート化を進めるために必要な知識や技術を身に付ける意欲をもった学生を求めます。

そこで、知能的食料生産科学特別コースは次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・技能・理解)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
2. 高等学校で履修する5教科(国語、数学、理科、地理歴史・公民、外国語)の基礎的な知識・技能を有している。

(思考・判断)

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(興味・関心・意欲)

地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関する様々な問題、特に食料に関する問題に関心を持ち、学士課程・修士課程の一貫教育によって修得する知識をこれらの解決に役立てたいという意欲をもって行動することができる。

(表現)

自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。

(主体性・協働性)

問題解決のために、主体性をもって多様な人々と協力できる。

<選考方法の趣旨>

【総合型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、高等学校で履修する主要教科・科目の基礎的な知識を有しているかをみるために、5教科7科目を課し、「知識・技能・理解」を評価します。さらに、食料や情報化技術に関する様々な問題に関心を持ち、修士課程までの学習に励む強い意志と知能的食料生産科学という新たな分野で活躍したいという意欲を有しているかをみるために、志望理由書、志願者評価書、調査書、活動報告書の提出を求めるとともに、面接を課しています。また、知能的食料生産科学に係わる基礎的知識を有しているかをみるために、口頭試問を課しています。さらに、面接と調査書・活動報告書により、「主体性・協働性」を評価します。